



贈呈されたおもちゃで職員らと遊ぶ子ども（金田淳撮影）

一足早いXマス 札幌の難病児に

日本財団などおもちゃセット贈る

日本財団（東京）と東京おもちゃ美術館は16日、医療が必要な未就学児の短期入所事業所「どんぐりの森」（札幌市手稲区）に難病児向けのおもちゃセットを贈った。子どもたちは一足早いクリスマスプレゼントを喜び、職員らと遊んだ。

両者は、意思伝達が難しい難病の子どもの興味を引き出し、大人とのコミュニケーションを促そうと、全国100カ所の医療機関や障害児支援施設におもちゃを寄贈している。

美術館を運営する認定NPO法人の会員で、札幌市在住の菊地三奈さんが事業所を訪れ、ドミノや5音階の木琴、サルのパペット人形など50種類のおもちゃを贈った。

事業所を運営する医療法人「稻生会」の土畠智幸理事長は「子どもたちと遊ぶ手段が多くないので大変助かる。新型コロナウイルスの感染が落ち着いたら、地域の子どもを呼んで一緒に遊べるようにしたい」と話した。

（小宮美秋）